

第 1 4 回生コン技術大会 論文発表申込書（記載例）

発表の区分 1	特定課題研究論文（ ） 2．一般研究論文 3．日常業務の改善事例等 4．調査報告				
発表題目名	高周波加熱法による単位水量の迅速推定における不確かさについて				
著者（5名まで） 2		所属工業組合名			
氏名	ふりがな	所属グループ名 （協組・試験場・企業・学校等）			
玉野 紀子	たまの のりこ	××生コンクリート共同試験場			
野呂 泰之	のろ やすゆき	同上			
井上 和久	いのうえ かずひさ	同上			
金井 武明	かない たけあき	同上			
鈴木 一雄	ずずき かずお	同上			
発表論文の概要					
1．目的（100～200字程度） 単位水量の検査が実施される事例が増えつつあるが、単位水量は生コンクリート自体の変動とサンプリングを含めた単位水量の迅速推定方法の誤差を完全に分離できないため、ばらつきを含んだ結果で合否の判定が行われるケースもあると考えられる。 本研究は、生コンクリート工場の工程管理で最も多く採用されている高周波加熱法 について、測定の不確かさの要因抽出および見積を行い、試験精度の向上を目的としている。 <div style="text-align: right;">以上</div>					
2．内容（300字程度） 一般に、試験誤差とは、測定値と真の値との差であり、真の値は容易に把握できるものではない。不確かさは、真の値が存在する範囲を示すものであり、測定値が測定された結果の信頼性をいかに確保するかという具体的な手法として、近年 ISO 規格を中心に導入されつつある。 高周波加熱法の不確かさの見積にあたっては、筆者らが ZKT-210 の制定をはじめ、これまでに実施した室内試験及び現場実験のデータを用いて、“測定における不確かさ”を参考に解析し、当該試験方法の信頼性の向上のポイントを明らかにした。 <div style="text-align: right;">以上</div>					
3．結論 3（100～200字程度） 高周波加熱法の不確かさの要因として、はかりの精度、細骨材の吸水率、過大粒・過小粒、サンプリング量、繰返し誤差及び個人誤差を挙げ、合成した不確かさは 3.4kg/m ³ であり、拡張不確かさは 6.8 kg/m ³ になった。また、推定した不確かさの信頼性の向上にむけて、トラックアジテータから排出される単位水量の不確かさ、電子レンジの不確かさを要因として考慮するための検討を現在行っており、原稿に反映する予定である。 <div style="text-align: right;">以上</div>					
	氏名	所属連絡先名 5	TEL 番号	FAX 番号	備考（要連絡事項 何でも）
申込者 4	辻本 一志	地区生コンクリート協同組合	(00) 1234-5678	(00) 1234-5679	発表予定者が論文作成者となる見込み。論文に関する全面的な問い合わせは玉野紀子までお願いいたします。
発表予定者	玉野 紀子	××生コンクリート共同試験場	(00) 8765-4321	(00) 9765-4321	

- 1) 発表の区分は 1～4 該当する番号に をつけること
- 2) 著者うちで発表者が決定している場合は氏名欄の前に をつけること
- 3) 結論が出ていない場合は途中経過を記すこと
- 4) 申込者には問合せに対し回答が可能な人名を記入のこと
- 5) 所属連絡先名は主在勤の勤務先名を記入すること